

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価		学校関係者の意見	
[1] 特色ある学校づくりの推進と、「開かれた学校づくり」の推進	* 体験活動と国際理解教育の推進  * ホームページや学年だよりの充実による積極的な情報発信	<b>評価指標</b> ①適切な体験活動（自然体験、文化体験等）を行うとともに、生徒が学校行事や体験活動に積極的に取り組むように指導する。また、生徒の国際理解を進める教育活動を行う。	<b>評価指標による達成度</b> ・〈保護者アンケート〉「学校は適切な体験活動ができています」 80.0% (R3: 61.7%, R2: 72.6%) ・〈生徒アンケート〉「学校行事や体験活動に積極的に取り組んでいる」 90.7% (R3: 88.1%, R2: 87.9%) ・〈保護者アンケート〉「学校は生徒の国際理解を進める教育活動ができています」 62.2% (R3: 66.1%, R2: 80.5%)	<b>総合評価</b>  <b>B</b>  (所見) ・新型コロナウイルス感染症による学校行事の規模縮小等の影響が残ったものの、保護者アンケートでは比較可能な項目全17項目中で肯定的評価が前年度比upしたのは7項目(昨年9項目)あった。3年ぶりに実施できた教育活動もあり、保護者アンケートでは、「学校は学校行事や授業参観等、保護者が参加できる機会を適切に設けている」58.3%(昨年度 51.8%) 「学校は学校生活の様子を学年だよりで等適切に伝えている」94.3%(昨年度 90.3%) 「学校は保護者に学校行事の様子をホームページ等で適切に伝えている」88.1%(昨年度 90.3%) だった。改善すべき点も少なくないが、工夫と協力による成果も見えた。一方で、「学校は保護者と協力して教育活動を行っている」72.7%(昨年度 72.9%)は横ばいだった。afterコロナ時代における新しい連携のあり方を検討・実践する必要がある。 ・生徒アンケートの評価では全17項目中で前年度比upは2項目(昨年12項目)だった。生徒の授業や活動等への更なる意欲の向上に向けて支援をしていく必要がある。 ・アルフレッド・ディーキンハイスクールとの交流がオンラインで継続できたことは大きな意義がある。	○生徒にとって大事な学校行事である修学旅行が実施できたことは本当によかった。今後も工夫して実施して行ってほしい。  ○開校当初からの様々な取組を継続していることに感謝したい。国際交流については、昨年度に引き続きオンラインでの実施となっているが、相手国の事情もあり複数回の実施が難しいとのことで残念である。保護者は国際交流を進める教育活動に期待しているので、次年度以降はもっと展開できることを願っている。そして、国際交流を富岡東中学校の強みとすべきである。  ○富岡東中学校に合格した児童はとても嬉しそうに報告してくれる。夢を持って入学してくる子どもたちが、そのまま純粋に伸びて行って欲しいと願う。子どもたちが6年間富岡東に通ってよかったと思う学校にしてほしい。	<課題> ○「心・力・夢を育てる中高一貫教育」を実現するため、特色ある学校づくりをさらに推進していく。  ○「地域に開かれた学校づくり」をさらに推進し、地域・保護者との連携をより一層深めていく。  <方策> ○アルフレッド・ディーキンハイスクールとの国際交流をさらに改善・推進していく。ホストファミリー等との継続的な交流も学校がサポートしていく。  ○学校関係者の意見、保護者・生徒アンケート結果を尊重し、様々な教育活動の改善を図る。  ○ホームページや学年だよりをさらに充実させるとともに、様々な行事にできるだけ多くの地域住民や保護者に来ていただけるよう、積極的に広報していく。
		②ホームページアクセス数が年間12万件以上になるようにする。	・ホームページへのアクセス数は年間50万件以上の見込みである。			
		③学年だよりを各学年で年間11回以上発行する。	・各学年で学年だよりを年間11回以上発行予定である。			
		<b>活動計画</b> ・体験活動で地域と連携し幅広い社会的視野と国際性を育てる。  ・ホームページや学年だよりで学校行事や部活動の状況等の取組を積極的に発信する。  ・学校行事や授業参観等、保護者が参加できる機会を適切に設ける。	<b>活動計画による実施状況</b> ・自然体験学習は1年生で実施、文化体験活動は全学年で実施できた。また、修学旅行は延期していた3年生と、例年通り2年生で実施した。姉妹校アルフレッド・ディーキンハイスクールとの交流は昨年度に引き続きオンラインで行った。  ・ホームページに学年だよりに、学校行事、給食だよりに、学校保健等を掲載・発信している。  ・感染症対策のため富東祭は非公開で実施した。授業参観は時間と人数を制限して15分ずつの3部制で実施した。3年ぶりに保護者が参加できる機会を設けることができた。			

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	価値	学校関係者の意見	
〔2〕 学力向上への取組の強化と、中高一貫教育の円滑な実施	* 指導内容と指導方法の工夫改善  * 生徒が意欲的に取り組む授業の創造と、生徒の確かな学力の育成  * 中高教員が連携した計画的継続的な指導	<p>評価指標</p> <p>①相互授業参観を年間1回以上実施する。 ②授業に積極的に取り組む生徒90%以上。 ③平均学習時間1日2時間以上の生徒70%以上。 ④中学生と高校生の交流活動を年間のべ10日間以上実施する。 ⑤中高の教員が一体となって中高一貫の教育課程について検討する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・年に2回以上の期間をそれぞれ設けて実施した。 A ・〈生徒アンケート〉88.9% B （前年度比 1.5%↓down） ・〈生徒アンケート〉66.4% B （前年度比 2%↓down） ・今年度新たに中3生と高1・2年生との中高合同球技大会を実施した。 B ・中高一貫教育推進検討会を開催し、中高一貫教育の特色を生かした教科指導のあり方について検討した。 A</p>	<p>総合評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見) ・授業への積極的な取組および平均学習時間1日2時間以上の項目については、肯定的な回答のポイントが昨年度より少し減少した。約90%の生徒たちの授業への積極的な取組を認める一方で、授業に積極的に取り組むことができなかったと回答した約10%の生徒たちへの支援が必要である。また、全生徒に学習の目的意識を持たせることで、学習意欲の向上と家庭学習時間の増加につなげたい。  ・「富東タイム」の継続的な実施により、英語の聞く力や読む力が定着している。また、俳句を通して情景を表現する力や想像する力を育てることができている。  ・県指定事業である「進化する教室イノベーション事業」を活用し、学力向上のためのICT等の活用や学校力向上に向けて、中高が連携を図り取り組んだ。  ・「大学連携強化！学校力向上拠点校事業」に係る研究授業や教員研修の実施により、中高連携をより意識した学習指導につながった。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>○今年度の新たな取組である中3生と高1・2年生との中高合同球技大会の実施はいい試みである。富東祭だけでなく今後も広げて欲しい。一方で中3生がリーダーシップを発揮する機会も大事なので、その点も考慮していただきたい。  ○授業に積極的に取り組むことができなかったと回答した生徒については、意欲の低下につながる恐れがないか危惧される。更なる支援の充実をお願いしたい。  ○生徒が質問しやすい環境作りを積極的にお願したい。例えば生徒が先生にアクセスしやすいシステムを構築するなどすれば、質問しやすくなるかもしれない。これを中学校から高校へつなげていけばよい。  ○単に勉強するだけでなく、本当に富東に来てよかったと子どもが思える学校にしてほしい。子どもは本質的に学ぶことが好きであると思う。きちんと話をすれば分かるだけの包容力を持っている。ただ単に古いことをするだけでなく、最新のテクノロジーで昔のものを取り入れていくことが大切である。</p>	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>○授業への積極的な取り組みを向上させる。  ○家庭学習時間1日2時間以上が当たり前になるよう意識させることに努める。</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>○授業への積極的な取り組みを向上させるために学習の目的意識を持たせる。進路学習をより充実させることで、生徒がキャリアパスポート（現時点の人生設計）を考える時間を適切に設ける。  ○発達段階に応じ、生徒に自身のことについて考える時期を適切に設ける。  ○キャリアパスポートを活用し、現時点の人生設計を通して、自ら学習の目的意識を持つことが出来るように促す。また、その学習意欲を家庭学習の向上につなげる。  ○学校行事はもとより日常生活の中での適度な中高生の交流を通して、「気づき」の時間・場面を設け成長の機会とする。</p>
		<p>活動計画</p> <p>・研究授業・公開授業・外部講師招聘による教員研修等を実施し、指導力の向上を図る。  ・「富東タイム」について、さらに充実した取り組みとなるように努める。  ・RRCの実施や具体的な学習目標の設定により、学習意欲の向上を図り、分からないところを質問する態度を育てる。  ・生活実態調査や学習状況実態調査を効果的に実施する。  ・教科学習を中心とした中高6年間のカリキュラム等について、中高合同の検討委員会等を開催して検討する。  ・中高合同の学力向上検討委員会等において、生徒の学力向上を図る授業の展開を検討する。</p>	<p>活動計画による実施状況</p> <p>・複数回の研究授業を行い、研究討議及び講師から学びの機会を受け充実した研修が実施できた。  ・「富東タイム」では漢字学習、俳句の創作、英語リスニング学習などを実施し、漢字検定や英語検定に多数合格するなど着実な成果があった。  ・進みたい道（進路）を考え、そのために必要な学習目標の設定をすることで、学習意欲の向上を図った。  ・生活実態調査や学習状況実態調査を効果的な時期を考慮して実施し、意欲に向上に努めた。  ・企画マルチメディア課を中心に、中高一貫教育推進検討会を開催するなど中高合同で教育課程や学力向上に関する取り組みを検討する体制が充実した。  ・検討委員会を複数回実施するなど、ICT活用を含めた生徒の学力向上を図る授業の展開を検討する体制が向上した。</p>			

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	価値	学校関係者の意見	
〔3〕 特別活動の充実と「さわやかで活力あふれる富東」の精神の高揚	＊あいさつ、マナー等の基本的生活習慣の定着  ＊安全教育や防災教育の徹底と事故防止への取り組みの強化  ＊生徒一人ひとりの人権感覚の向上  ＊環境美化への努力と、環境問題解決の実践力の育成	評価指標 ①遅刻ゼロの生徒90%以上。 ②あいさつがきちんとできる生徒90%以上 ③市レベル以上の各種大会・コンクール等での入賞が、年間のべ30人以上 ④登下校時の交通事故ゼロ。 ⑤人権意見作文発表会や人権教育講演会等の実施。 ⑥教職員人権問題研修会を実施。 ⑦日々の清掃活動への意識の向上。 ⑧全校的なボランティア活動の実施。	評価指標による達成度 ・〈生徒アンケート〉遅刻ゼロの生徒93.4% (前年度比1.3%↓) B ・〈生徒アンケート〉あいさつをきちんとしている生徒89.4% (前年度比3.6%↓) C ・部活動参加率108%(247人/239人) B ・市レベル以上の各種大会・コンクール等での入賞が、年間のべ257人。 B ・自転車通学生の登校時の交通事故が1件。 C ・各学級代表による人権意見作文発表会と、各学年の個別の人権課題に応じた講演会を実施した。 A ・中高合同による人権問題研修会を実施した。 A ・日々の清掃や大掃除など、指示されたことは真面目に行っている。 B ・全校的なボランティア活動は、実施できなかった。 C	総合評価 B  (所見) ・生徒アンケートで「学校に来ることが楽しい」、「毎日、遅刻せずに登校している」、「あいさつをきちんとしている」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合が、昨年度と比較して減少している。 ・生徒同士、あるいは生徒と教師の人間関係は良好であり、学校生活への満足度は比較的高いことがうかがえる。 ・ほとんどの大会が開催され、運動部・文化部ともに積極的に活動している。  ・生徒アンケートで「相手の立場に立った言葉づかいや行動ができている」の項目に肯定的な回答をした生徒は、90.7%であり、昨年度の95.2%より大きく減少している。 ・一方で、生徒の人権意見作文発表会では、自分や周りの人権について深く考え、自分自身のことを堂々と話す姿から人権意識の高さを感じることができた。 ・各学年で実施した人権講話では、講師の話に熱心に耳を傾ける姿が見られ、講演後の感想文からは、自分のこととして考える姿勢がうかがえた。	学校関係者の意見 ○以前より挨拶できる生徒が減っており、生徒に元気がないと感じる。スマホの影響があるのかもしれない。一方で、オンラインで実施した発表会で、以前より質問が多く出て活発な意見交換ができたとの報告もあり、オンラインがよい方向で活用された事例だと思う。多様な考え方を持つ生徒が多い中で、活発にできたことはよいことであり、大事なことだと思う。  ○学校評価について、生徒・保護者の満足度も大事である。生徒募集がどうなっているかや、どのように情報発信をしているのかについても評価していくことが必要である。今の状況をしっかり把握した上で取り組んでほしい。  ○中高一貫教育について、様々な視点から評価する時期が来ている。中高でどのような人材を育成するのかを改めて考える必要がある。また、小学生への働きかけも必要になってきていると感じている。	<課題> ○自らの安全と公衆道徳に対する生徒の意識を高め、さらに学業に集中できるように生活習慣を改善する必要がある。 ○中高一貫校として、中学校入学から6年間を見通した継続的、かつ発達段階に応じた教育計画を立て、人権問題を自分のこととして考え行動することのできる生徒を育成する。  <方策> ○自転車通学や公共交通機関でのマナーの向上に向けた取り組みを進めるとともに、通学路の交通立哨などの安全指導を充実させる。 ○やりとり帳を活用し、生活習慣の見直しにいかすとともに、個々の生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図る。 ○各学年の生徒の実態に応じた学習すべき個別の人権課題について、講演会や体験活動などを取り入れ、できるかぎり体験的な学習活動ができるように工夫していく。 ○人権かるた取り大会は、生徒の人権意識を高めるよいきっかけとなっている。今年度は、各学年や学級での実施だったが、来年度は全校で実施したい。
		活動計画 ・あいさつの励行や清掃活動への主体的取り組みを促す。  ・やりとり帳を活用し、個々の生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図る。 ・定期的に生活実態調査を実施する。 ・自転車通学マナーを向上させる取組を進め、通学路の交通立哨などの安全指導を充実させる。 ・人権や環境問題について、生徒と保護者が共に学ぶ機会を増やす。 ・学年だよりやホームページ等を通じて、学校での人権教育や環境教育の学習内容を、保護者に向けて発信する機会を増やす。 ・日々の清掃活動に、生徒と教員がともに、意欲的・主体的に取り組む。 ・資源ゴミの分別回収や廃油の回収等、美化委員会が中心となり、いっそうの充実を図る。	活動計画による実施状況 ・富東生らしいさわやかなあいさつが定着している。清掃活動にもしっかり取り組んでいる。 ・やりとり帳をこまめに確認し、気になる点についてはHR担任を中心に学年団で対応し、早期の解決に努めている。 ・始業のチャイムと同時に授業を始める習慣は引き続き定着している。 ・自転車車体検査や街頭交通指導を実施し、5月には交通安全教室を実施した。  ・阿南市の人権啓発標語募集の呼びかけに全生徒及び多くの保護者の応募があった。 ・富東人権新聞を年6回発行し、中学生の人権作文や意見を掲載した。また、各学年の人権講話の内容や生徒の感想を、学年だよりに掲載した。 ・常に教員が生徒とともに清掃活動に取り組む中で、生徒の意欲や主体性の向上が見られる。 ・各学級にリサイクルボックスを設置し、リサイクルできる紙類は資源ゴミとして分別収集している。			